

文月能

令和元年七月六日(土)
開演 十二時(正午)
開場 十一時
於 宝生能楽堂

演目の解説

12:00

鶴亀

水上 嘉
野月 惺太
影山 道子

ワキ 則久 英志

大鼓 柿原 光博
小鼓 曾和伊喜夫
太鼓 金春 國直
笛 八反田 智子

能「鶴亀」(つるかめ)
所は中国 古代の皇宮に臣下を引き連れて皇帝が威出まじになり、新年の節会が行われます。正面に威風堂々と皇帝が着座すると、皇下が舞み出で、毎年帝閣下には舞の後、月宮殿に渡られ、舞奏せられ、帝の言上し、鶴と亀が舞台に入つて来て、舞を舞います。鶴と亀が皇帝に宮から下り、莊重な舞を舞は、左右の袖の露を取つて宮から下り、舞を舞います。臣下が引き連れて長生殿へ還御して行きます。小品ながら嘉例めでたい曲。

12:40

水掛髻

後見 小倉健太郎
金森 良充

ワキツレ 館田 善博
御厨 誠吾
間 山本 則孝

地謡 上野 能寛
朝倉 大輔
田崎 甫
辰巳 二郎
辰巳 満次郎
大坪 喜美雄
金森 秀祥
水上 優

山本 泰太郎
山本 凜太郎

狂言「水掛髻」(みずかけむこ)
日照りが続き、舅が自分の田を見に来てみると田に水がありません。ところが隣の田の水がたつぶりあるので、舅は堰を切つて自分の田の水を引き込みます。今度は舅がやつて来て、自分の田の水がなくなつて、隣の田の水を見て、翌日も舅が田に行くと水がないので、隣の田の堰を切り、そして水を引くと水になつてしまいました。そこへ舅がやつて来て、喧嘩

13:10

生田敦盛

子方 出雲路 啓
シテ 関 直美

ワキ 村瀬 提

大鼓 大倉慶乃助
小鼓 岡本はる奈
笛 藤田 貴寛

能「生田敦盛」(いくだあつもり)

然上人は賀茂の明神に参詣の折に、捨てられていた男の子を拾います。その子が十歳になったとき、説法に集つた聴衆に尋ねると母親が名乗り出た、父親は一の谷で果てた平敦盛であつたことを明かし、夢でも父に逢いたいと願う子は賀茂の明神に社参し、告げを受け、僧も同道して生田の森に下り、日暮れて宿を探すと二人は一軒の庵で、我が家に会うため冥官から戻つて来た在りし日の姿の敦盛の霊と対面します。父を慕つてすがりつく子を宥め、平家の運命を語り、舞を舞つて、また修羅道の巷に帰つて行きます。

14:00

籠太鼓

シテ 広島榮里子

ワキ 御厨 誠吾

大鼓 大倉栄太郎
小鼓 大村 華由
笛 熊本俊太郎

〆 休憩十分 〆

後見 石黒 実都
内藤 飛能

地謡 奥家万理奈
武田 伊左
葛野 伊左
土屋 周子
柏山 聡子
前田 親子
久貫 弘能
内田 朝陽

後見 和久莊太郎
久貫 弘能

〆 休憩十分 〆

地謡 奥家万理奈
武田 伊左
葛野 伊左
土屋 周子
柏山 聡子
後藤 裕子
石黒 実都
内田 朝陽

15:00

しびり

若松 隆

山本 則俊

15:10

熊坂

シテ 内田 芳子

ワキ 館田 善博

大鼓 原岡 一之
小鼓 大山 容子
太鼓 林 雄一郎
笛 成田 寛人

床几之型

間 若松 隆

隆

後見 東川 光夫
小倉伸二郎

地謡 上野 能寛
藤井 秋雅
辰巳 和磨
澤田 宏司
前田 佐野
今井 尚廣
大友 泰行
順

終演予定 十六時二十分頃

能「熊坂 床几之形」(くまさか)
美濃の国赤坂辺を通り掛つた僧は、ある者を用つて欲しいという僧に呼び止められます。僧が乞われるまま庵室に行くといふ像などはなく、長刀や兵具が多くなり、不審に思ひ尋ねると、この辺りには山賊や夜盗が多く、襲われる人がいたなら助けに行くと、僧は語ります。語るといふか相手は僧も消えて、庵室も無く自分も草叢に臥せつていたのでした。僧が用つていたら夜半に大盗賊熊坂長範の霊が現れ、牛若に討たれた有様を仕方話に語り、小書一冊、床几之形は、常に床几から立ち上がつて舞い始める型を、床几に掛けたまま舞います。

令和二年公演予定 於・宝生能楽堂

立春能 二月二日(日)

文月能 七月四日(土)